

平成 30 年 8 月 1 日現在

機関番号：14301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2015～2017

課題番号：15KK0087

研究課題名（和文）地域の競争優位 国際比較産業史の中のヨーロッパと東アジア（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Competitive Advantage of Regions: Comparative Studies of Industries in Europe and East Asia(Fostering Joint International Research)

研究代表者

黒澤 隆文（Kurosawa, Takafumi）

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：30294507

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 5,300,000円

渡航期間： 7ヶ月

研究成果の概要（和文）：本課題は（1）産業論・産業史，（2）経営史の方法論・史学史，（3）国家主権・地政学リスクと多国籍業の3主題からなる。（1）では産業概念を再定義して分析方法を確立し，産業競争力の長期持続のメカニズムを示し（Bouwens, Donze & Kurosawa, 2018），a)組織能力の場として産業を捉え直す理論研究，産業概念と産業動態の学際的国際的大型出版企画（OUP Handbook）に着手した。（2）では歴史学派に遡る学史研究，方法論研究を公刊した（翻訳書および『経営史学』掲載論文）。（3）ではB. Wubs, N.Forbesとの共編で英文専門書を刊行予定である。

研究成果の概要（英文）：This project made contributions in three areas/topics: 1) industry studies and industry history; 2) methodology and historiography of business history; and 3) organizational structure of multinational enterprise to address geopolitical risks. In the first topic, this research re-defined the concept of industry, and presented multiple mechanisms of long-lasting industrial competitiveness (Bouwens, Donze and Kurosawa, 2018). It also argued that the industry can be positioned as a locus of organizational capabilities. "Oxford Handbook of Industry Dynamics" will be published to explore this issue in wider variety of disciplinary contexts. In the second topic, an early history of the discipline was examined, and it was connected to the current debate on the diversification of methodology. In the third topic, political risks or non-market risks were positioned as a main driver of organizational innovations of multinationals (Forbes, Kurosawa and Wubs, forthcoming).

研究分野：経営史，産業論，多国籍企業研究

キーワード：産業論 競争力 産業動態 多国籍企業 政治リスク 方法論 経営史 国際化

1. 研究開始当初の背景

本研究課題「地域の競争優位—国際比較産業史の中のヨーロッパと東アジア（国際共同研究強化）」は、研究種目「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）」によるものであり、この研究種目の特殊な性格を反映して、本課題に先行して代表者が研究代表者として研究を行なった同名の平成23年度科学研究費基盤研究（A）（課題番号23243055、研究期間2011-2015年、以下「基盤A」と記す）の内容と成果にもとづきこれを「基課題」として申請・採択されたものである。なおこの「基盤A」は、経済史領域で最大級の規模を持ち、水平的な組織原理とモジュール構造、インキュベーター機能、高密度の国外成果発表を特徴としていた。

基課題であるこの「基盤A」においては、欧州・東アジア両地域の歴史的諸条件が、戦後産業史の動態、特に競争力の動態と如何なる関係にあるのかを解明することを目標としていた。採択後の国際的連携関係の拡大や、世界の産業競争における北米の重要性を踏まえて、北米の研究者をも海外研究協力者に組み込み、また研究対象地域としても北米を対象とし、日本における経営史分野の研究としては例外的なまでに国際的な研究を行った。とはいえ、上記の経緯から研究組織と研究対象の双方での北米の組み込みは十分とはいえなかった。

2. 研究の目的

上記「研究の背景」の状況を踏まえて、「基課題」を国際共同研究により国際的な普遍性を持つものに発展させることを求められる本研究課題においては、以下の3点を目的とした。研究内容の深化（理論・データ）、北米の事例と研究の摂取/米・欧の架橋、関連主題への横展開。このうち は を必要とし、また は派生的な関連主題への取組み(=)を要する。には北米での長期滞在が不可欠であった。また の関連主題とは、具体的には(1)産業史・経営史の方法論と Historiography ,(2)グローバル価値連鎖の視点,(3)国家主権・地政学リスクと多国籍企業の関係の分析の3点である。

3. 研究の方法

効果的な研究推進のために、オランダに本拠を置く姉妹組織との2者間連携からなる「基課題」での従来組織を、世界の研究を牽引する一定数の「コア人材」との多角的ネットワークに転換する。本領域では「コア人材」は世界的に分散しており、個別主題に即して特定の研究機関に所属するのは適切ではない。唯一、ネットワークのハブの機能を持つのは、経営史発祥の地で今日も研究基盤の世界的な供給拠点である Harvard 大学である。同大には欧州のコア人材も集まる。よって長期滞在先は同大とする。基課題他での経験に

より、「コア人材」と協働し求心力ある主題を設定 CfP 他で広く参加者公募・研究集会実施 適宜大小の濃密WS実施 出版（書籍・査読誌特集号）のサイクルの有効性を確認し運営ノウハウを構築しており、これに基づき研究を行う。具体的には、米・欧で開催される国際学会における報告と、これらにあわせて実施する小規模ワークショップ、共著者との間での調整、史学史に関する学会参加者へのインタビューを軸にする。国際学会としては、BHC（Business History Conference、本拠米国）、EBHA（European Business History Association、本拠英国）、AOM（Academy of Management、本拠米国）を、また国外における各国学会としては、ABH（Association of Business Historians、本拠英国）、GUG（ドイツ経営史学会、本拠ドイツ）を利用した。

4. 研究成果

「目的」に掲げた3つの具体的課題においてそれぞれ成果をあげた（下記の各項目に関する詳細情報を参照）。いずれの主題においても、代表者の研究活動は飛躍的に国際化をとげた。これまでは単著論文、あるいは日本あるいは欧州に基盤を置く他の研究者との共著論文を国内外の学会・学術誌等で発表するスタイルであったが、本基金による海外滞在所でのネットワーク形成によって、北米の多数の研究者とも共同研究を実施し、国際共著論文を刊行し、また北米に本拠を置く経営学分野の学会でも活動基盤を得た。さらに、Oxford Handbook の編者となるなど、日本に基盤を置く人文社会系の研究者ではこれまで極めて例外的といえる機会を掴むことができた。

(1)産業論・産業史では Routledge 社より英文専門書 "Industries and Global Competition" を刊行し (Bouwens, Donzé & Kurosawa 2018)、産業概念を再定義し、産業分析の方法を示し、11の産業に関して競争力の長期持続のメカニズムを明らかにした。

これに対しては国際的な反響が大きく、そこから Matthias Kipping (ヨーク大学、カナダ) を海外共同研究者・共著者・共編者とする二つの産業研究が派生した。その一つは産業を戦略論におけるケイパビリティ概念を産業概念に適用し、産業を組織能力の「場」として捉え直す理論研究である。これは北米での長期滞在の終了後に本格化し、EBHA (2017年8月Wien)、SKM (2017年9月、Berlin、共著だが報告はKippingのみによる)、ISA (Industry Study Association, 2018年6月、Seattle) で報告されている。もう一つは、産業を経済・経営分析の基本範疇として再定義する学際的・国際的な大型共同研究（産業動態研究）であり、出版企画の形で進められている。具体的には、オックスフォード大学出版との間で "Oxford Handbook of Industry

Dynamics”の出版契約を締結した。これは 3 部 36 章構成からなり、世界の分野トップ人材 50 名超を寄稿者とするものであり、産業史・産業論研究の今日的水準を示すものとなる予定である（2020 年末刊行予定）。

(2)「経営史の方法論・史学史」においては長期の時間軸と国際比較の観点から経営史の学史と経営史の方法論について各種の共同研究を行い、特に米国では経営史家への多数のインタビューを実施し、成果をあげた。その第一は、Routledge Companion to Business History 所収の R.D. Wadhvani, M.Kipping との共著論文である。これは、Harvard Business School での経営史講座の創設、あるいは A.チャンドラーの著作を起点に描かれがちな経営史の歴史を、19 世紀末の独英の歴史学派からの長い系譜の中に位置づけ、21 世紀に入ってからの経営史方法論の多様化を、経営史の本来の形への回帰の動きとして再解釈したものである。第二は、これと並行して進められた”Organization in Time”(Bucheli & Wadhvani 2014)の翻訳であり、これも出版契約に至り、中島裕喜・山内雄気との共著と、二人の原編者の協力により刊行準備を進めている（文眞堂より近刊予定）。第 3 は、経営史の方法・課題・存在意義に関する近年の論争をレビュー論文の形で整理し独自の論考を加えたものである。久野愛との共著論文は、21 世紀に入ってからの海外での方法論論争の爆発的な拡大を明らかにするとともに、日本での研究状況の著しい保守性をも示したものであるが、『経営史学』への上下分割での掲載が確定している。

(3)の国家主権・地政学リスクと多国籍企業に関しては、海外共同研究者である Ben Wubs (ロツテルダム・エラスムス大学, オランダ)とともに共著論文を執筆し、またこれに Neil Forbes (コベントリー大学, 英国)を加えて学術専門書の編集を進めており、(*Multinationals, Political Risk and Organizational Change: From Total War to Cold War*, Routledge, Forthcoming), 2018 年中に刊行される予定である。

2016 年 8 月 (Bergen, EBHA, WCBH), 同年 9 月 (Erasmus 大学ワークショップ), 2017 年 6 月 (ABH, Glasgow) には、これに関する学会報告を行い、その内容は、いずれも上記専門書、および、Teresa da Silva Lopes らが編集の *Makers of Global Business* (Routledge より刊行予定) に収録が予定されている。

また上記の共同研究者らとは別個に、経営学の学会 (AOM) においては Matthias Kipping (前出), Daniel Wadhvani (University of Pacific, 米国), Stephanie Decker (Ashton Business School, 英国) との共同で、同じく政治リスクによる企業へのインパクトに関する報告をおこなった。同年

7 月 (AOM, Atlanta)

これらは、多国籍企業の組織形態、とりわけ複雑な持株会社構造や信託をもちいた「企業アーキテクチャー」ないし「企業デザイン」が、政治リスクおよび課税に対する対応して 19 世紀末以降出現したこと、特に 1920 年代にこの種の持ち株会社が各地で急激に重要性を増したことを明らかにした。

5. 主な発表論文等
(研究代表者は下線)

[雑誌論文](計 5 件)
(専門学術書収録の個別論文を含む)

(1) 黒澤隆文, 久野愛「経営史研究の方法・課題・存在意義—英語文献における研究動向と論争(下)」『経営史学』, 査読無・招待論文, 53-3, 2018, 掲載決定(掲載ページ未定)。

(2) 黒澤隆文, 久野愛「経営史研究の方法・課題・存在意義—英語文献における研究動向と論争(上)」『経営史学』, 査読無・招待論文, 53-2, 2018, 掲載決定(掲載ページ未定)。

(3) Takafumi Kurosawa, “Introduction. Industry History: Its Concepts and Methods”, in Bram Bouwens, Pierre-Yves Donzé and Takafumi Kurosawa (eds.), *Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders*, Routledge, pp. 1-24.

(4) Takafumi Kurosawa and Tomoko Hashino, “Three Markets and Three Types of Competitiveness: Pulp and Paper Industry”, in Bram Bouwens, Pierre-Yves Donzé and Takafumi Kurosawa (eds.), *Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders*, Routledge, 2018, pp. 235-259.

(5) Matthias Kipping, Takafumi Kurosawa and R. Daniel Wadhvani, “A revisionist historiography of business history: A richer past for a richer future”, in John F. Wilson, Steven Toms, Abe de Jong and Emily Buchnea (eds.), *The Routledge Companion to Business History*, Routledge, 2017, pp.19-35.

[学会発表](計 15 件)

(1) Matthias Kipping and Takafumi Kurosawa, “Beyond the firm: Industry evolution in a capabilities framework”, 2018 Industry Studies Conference:

- Industry Studies Association, 2018年6月1日, Seattle (アメリカ合衆国)
- (2) Takafumi Kurosawa and Atsushi Kondo, "Relationship as Resources: East Asian Screw Industry as a "Versatile Supporting Industry", 2018 Industry Studies Conference: Industry Studies Association, 2018年5月31日, Seattle (アメリカ合衆国)
- (3) 黒澤隆文「経営史研究の意義・課題・方法—米欧での近年の論争と英語文献の検討」経営史学会第53回全国大会, 2017年10月22日, 福井県立大学(福井県)
- (4) Matthias Kipping and Takafumi Kurosawa, "Liberating capabilities: Moving beyond the firm to understand sustainable competitive advantage", 21st Annual Congress of European Business History Association (EBHA), 2018年8月26日, Vienna (オーストリア)
- (5) 黒澤隆文「多国籍企業史研究における国家主権と地政学リスク」経営史学会関西部会大会, 2017年8月10日, 大阪大学豊中キャンパス(大阪府)
- (6) Daniel Wadhvani, Matthias Kipping, Takafumi Kurosawa and Stephanie Decker, "Business and Management in an Age of Rising Nationalism: Historical Perspectives", (Session 573), 2017 Annual Meeting of Academy of Management (AOM), 2017年8月6日, Atlanta (アメリカ合衆国)
- (7) Takafumi Kurosawa and Ben Wubs, "Enhancing the neutrals: Organizational change of Swiss and Dutch multinationals as a result of the First World War", Annual Conference 2017: Association of Business Historians, 2017年6月30日, Glasgow (イギリス)
- (8) Takafumi Kurosawa and Young-Ryeol Park, "Japan and South Korea", Business History in the Age of Modern Globalization: an international Colloquium in Business History, Bocconi University, 2017年1月13日, Milan (イタリア)
- (9) Takafumi Kurosawa, "A Comparable Historiography of Business History", 韓国経営史学会創設30周年記念国際学術大会「革新と企業家精神」, 2016年11月19日, ソウル(韓国)
- (10) Takafumi Kurosawa, "How to Link Firm, Space and Industry: Methodology and Concepts of Industry History", The International Sessions of the 52nd Annual Meeting of Business History Society of Japan, 2016年10月8日, 中央大学(東京都)
- (11) Takafumi Kurosawa, "Historical Inter-industry Linkages and Transformation of Regional Industries: Switzerland and Japan" World Congress of Business History, 2016年8月26日, Bergen (ノルウェー)
- (12) Neil Forbes, Takafumi Kurosawa and Ben Wubs, "From Total War to Cold War: International Business and Organizational Innovation" World Congress of Business History, 2016年8月26日, Bergen (ノルウェー)
- (13) Takafumi Kurosawa, "Global Recourse Procurement System and Japanese FDI in Brazil: Pulp and Steel Industries, 1945-2015" British Academy Workshop: Reflections on the Impact of Foreign Direct Investment on Brazilian Economic Development, 2016年7月22日, São Paulo (ブラジル)
- (14) Matthias Kipping, Takafumi Kurosawa and Daniel Wadhvani, "*Beyond Chandler: A Revisionist Historiography of Business History*", Joint Conference: Association of Business Historians (ABH) and Gesellschaft für Unternehmensgeschichte (GUG), 2016年5月27日, Berlin (ドイツ)
- (15) Takafumi Kurosawa, "*Reinterpretation of the Nature of Industry: Methodology and Concepts of History of Industries*", 2016 Annual Meeting of Business History Conference (BHC), 2016年4月2日, Portland (OR) (アメリカ合衆国)
- { 図書 } (計1件)
Bram Bouwens, Pierre-Yves Donzé and Takafumi Kurosawa (eds.), *Industries and Global Competition: A History of Business Beyond Borders*, Routledge, 2018. 273+xvi.
- { 産業財産権 }
- 出願状況 (計0件)
取得状況 (計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~kurosawa/>

6．研究組織

(1)研究代表者

黒澤 隆文 (KUROSAWA, Takafumi)

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：30294507

(2)研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

Joeffrey Jones

ハーバード大学・Harvard Business

School・教授

〔その他の研究協力者〕

Matthias Kipping

ヨーク大学・Schulich School of Business・

教授

Daniel Wadhvani

パシフィック大学・Eberhard School of

Business・教授

Ben Wubs

エラスムス大学ロッテルダム・Erasmus

School of History, Culture and

Communication・教授

Teresa da Silva Lopes

ヨーク大学・The York Management

School・教授

Neil Forbes

コベントリー大学・Department of History,

Internaional Relationship and Politics・教

授